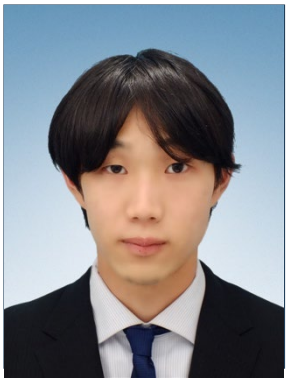
参加報告書

気候変動の課題解決に取り組む学生ワークショップ(2024/03/13～17)



- 氏名：　野田悠太
- 所属：　北海道大学
- 学年：　4 年
- ワークショップのグループ：

認証 I

- 受けたワークショップの内容

環境変動問題の対策として、4 つの班に分かれグループワークを行った。自身は認証マークの班員として参加して、認証マークが如何にして普及するかをテーマにディスカッションした。
認証マークとは、環境や労働環境が健全な過程で生産されたものと証明するものであり、これを普及することは Co2 削減を始めとした SDGs な取り組みに繋がる。

しかし現状認証マークを取る事にもコストが必要であり、その分のコストが上乗せさせることで、販売価格にも上乗せが出る事で消費者は手を出しづらいのが現状である。
また認証マークの普及はヨーロッパ諸国の方が先進的である。
ヨーロッパでは企業間の取引で認証マークの有無が必須となる場合もある。
この様な背景を踏まえ、どの様なアクションをする事で認証マークを日本に普及させていくかを具体的な案と共に提案した。

- 受講した動機

全国の学生とディスカッションをする機会を作りたかった。
企業への訪問を経て、環境問題に対しての企業としての問題、視点を知りたかった。

- 学位論文や研究への効果

今回のワークショップを通じて、今後社会的な信頼の I つの要素として認識マークの取得や、環境変動への対策が企業に求められる事を知った。

自身は北海道の街づくりをテーマに研究しているが、街づくりの計画の一部として環境への影響を考慮していく事が今後の切り口になっていくと感じた。

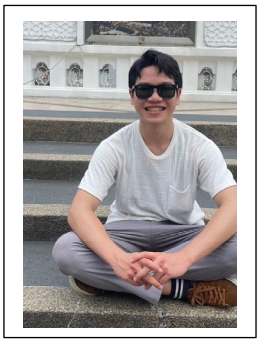
- 今後参加する学生へのメッセージ

ワークショップにて実際に環境問題に取り組まれている方と話すことによって、環境変動対策が部分が少しずつ見えてきました。

SDGs への取り組みが企業に求められる様になっています。将来やることが明確でない方もワークショップに取り組み、地球全体としての問題と、企業が求められる役割を知ることで、自分がどの様な形で社会に貢献していくかよりクリアにイメージするキッカケにもなると思います。

参加報告書

気候変動の課題解決に取り組む学生ワークショップ(2024/03/13～17)



- 氏名：　グエン　ミン
- 所属：　理学部化学科
- 学年：　１年
- ワークショップのグループ：
  認証２グループ（お菓子パラダイス）

- 受けたワークショップの内容

　JFE 製鉄やセブンイレブンホールディングスなどの大手企業や、千葉エコ・エネルギーなどのスタートアップ企業から環境目標・現在の対策・現状の課題についてお話をしていただきました。そこから、それぞれの班に与えられたテーマを軸に、現状の課題を解決するような新しい提言を考え発表しました。提言は斬新かつ実現可能性が求められ、大学も学部も異なる班員で様々な視点から意見を出し合いました。

- 受講した動機

　私は自身の見識を広め、かつ人脈をつくるという目的で参加しました。私は SDGs に関する特別な活動をしているわけでもなく、また知識も浅いものしか持ち合わせていませんでした。しかし、今後の社会を考えると環境対策は必要不可欠です。また欧米に目を向ければ個人レベルから国家レベルまで環境対策は何かをして当たり前の共通認識があります。これからの日本も環境対策をより強く求められると考えています。ワークショップに参加する学生は皆が環境対策に高い意識を持ち様々な活動をしてきているだろうと考え、彼ら彼女らから学べることが多いと感じ参加しました。

- 学位論文や研究への効果

　私はワークショップに参加した時点では一年生であるためまだ研究を始めていません。今すぐに研究への効果は申し上げられないのですが、今後の研究テーマとして「電池」について研究していきたいと考えるきっかけになりました。理由は東京電力から現状・今後の課題として電気の貯蓄ができず再生可能エネルギーの増加の足かせになっていると伺ったからです。電池の性能向上によってこの問題が解決しうると考えます。また電気自動車の普及も電池の性能が向上すればもっと広まると思います。再生可能エネルギーと電気自動車の組み合わせにより、二酸化炭素の排出を抑えるのが難しい発電分野が大きく改善していくと考えます。

- 今後参加する学生へのメッセージ

　北海道から沖縄まで大学も出身も学部もばらばらな大学生が集まります。しかしみんな志は同じです。仲良くならないわけがありません。自分のコミュニテイーに所属しているだけでは得られない視点や考え方、人脈ができます。ワークショップが終われば新しく出会った友達と一緒に観光しに行くこともできます。ぜひワークショップで得られる貴重な学びや経験を今後の糧にして共に世界を救いましょう！

参加報告書

気候変動の課題解決に取り組む学生ワークショップ(2024/03/13～17)

- 氏名：　川村菜月
- 所属：　水産学部海洋資源科学科
- 学年：3(4 月からは 4)
- ワークショップのグループ：

認証③

- 受けたワークショップの内容

今回は気候変動を「脱炭素化」を進めることで解決しようというテーマでワークショップが進められました。前半は基調講演や現場見学がメインでした。特に，JFE スチールの工場を見学できたこと，また鉄鋼製造という二酸化炭素の排出がとても多い産業でカーボンニュートラルについての取り組みについてご紹介いただいたことが印象できでした。

- 受講した動機

私は，小学校のころから地球温暖化について興味を持ち始め，洋上風力発電に強く興味を持ち，海のことを学んでみたいと思ったことがきっかけで北海道大学水産学部へ進学しました。普段の学生生活では，海洋のことを学ぶことはできますが，環境問題に強く興味を持つ友人になかなか出会えず，熱い思いを持った学生と出会ってみたいと考えこのワークショップを受講しました。

- 学位論文や研究への効果参加当時は３年生だったので研究等は特に行っていなかったので効果と言われると難しいですが，自分自身は理系なので環境問題の解決を考えるときに「技術の発展」や「原因の究明」といったところに焦点を当てがちですが，今回のワークショップで出会った学生の多くは「経済」にスポットを当てて考えているのが非常に印象的でした。
  同じ問題を解決しようとする際に複数のアプローチがあること，それを同時に行っていく必要があることを改めて実感する機会となりました。

- 今後参加する学生へのメッセージ

今回私は「仲間」に出会いたいという動機で参加して，本当にその目的を達成することができました。自分とはまるで違う考えや知識を持つ仲間と年齢も学年も関係なく議論したあの時間はかけがえのないものとなりました。自分にはなかった新しい視点を取り入れることができます。
特に水産学部の皆さん，水産学部は 3 年次からは札幌から遠く離れた函館キャンパスで生活することになります。そうすると他の学科の人との交流の機会が極端に少なくなり，視野が狭まってしまいます。このワークショップに参加して住んでいる地域も，学部も学年も違う仲間と出会って議論した 5 日間はとても刺激的でした。ぜひ外に出てみてください。

参加報告書

気候変動の課題解決に取り組む学生ワークショップ(2024/03/13～17)

- 氏名：　榊原英徹
- 所属：　文学部
- 学年：三年
- ワークショップのグループ：認証

- 受けたワークショップの内容

気候変動の課題解決、とりわけ脱炭素問題解決のため、最終的に日本の企業やＮＰＯに提言を行うことで具体的な行動に結びつきうるアイデアを提供し、またその過程で課題に対する我々の見識を広めるというような趣旨のワークショップでした。前半日程では関連企業の現地見学に赴き、あるいは質疑応答を交わし、後半ではそうした見地や自分たちの調べにもとづいて、作業グループで提言に向けたプレゼン資料を作りました。

- 受講した動機

私は現在文学部の哲学研究室に籍を置いていますが、そこで行われている研究はものごとの「そもそも」を探究する営みです。しかしもし実益から離れているとすれば、研究の動機の問題があります。なぜこんなにも難解な議論を行っているのか虚しく感じることもありそうです。そこで、対照的な活動の一つとして、現実的な課題を解決するための議論はどのような実態なのかを知ろうと思い、議論の手順や周囲の実際の議論の様子などを見て学ぶために今回本ＷＳに参加しました。

- 学位論文や研究への効果

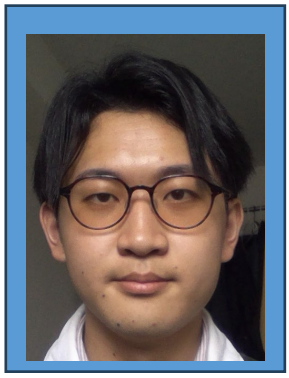
上記の動機で述べたねらいとしての効果は現時点では不明です。
副次的な効果ですが、ハードスケジュールを経験して自分自身の体調管理にはいっそう気を付けるようになりました。

- 今後参加する学生へのメッセージ

募集案内をよく読んで参加してください。

参加報告書

気候変動の課題解決に取り組む学生ワークショップ(2024/03/13～17)



- 氏名：井艸駿太
- 所属：北海道大学理学部物理学科
- 学年：2 年
- ワークショップのグループ：

認証

- 受けたワークショップの内容

講義
現地見学
ディスカッション
プレゼンテーション
質疑応答

- 受講した動機

Workshop 参加前に、株式会社イオンでの業務内容について聞く場面があり、サプライチェーンの意味や現状について知ることができた。
そして、サプライチェーンにおける認証というものについて知りたくなった。

- 学位論文や研究への効果

気候変動を研究の要素に入れる必要性を感じたし、そうすることでより魅力的な研究になるのではないかと感じた

- 今後参加する学生へのメッセージ

様々な学びを得ることができる。
その学びとは、まず普段の生活では身近にあっても気づくことができない認証ラベルというものについて知ることができたり、様々な業種の気候変動に対する多様なアプローチを知ることができたりする。
異なる視点をもつ人たちとディスカッション、プレゼンテーションをできるのも強みだ。
他大学の人たちと関われるめったにない機会である。

参加報告書

気候変動の課題解決に取り組む学生ワークショップ(2024/03/13～17)

- 氏名：小松　奈菜
- 所属：理学院自然史科学専攻多様性生物学講座Ⅳ
- 学年：修士１年
- ワークショップのグループ：鉄鋼①

岡山、福岡、東京の大学１年生～修士１年まで、学部も経営学部や法学部、工学部など多種多様な計６人のグループでした。

- 受けたワークショップの内容

１日目　基調講演

東京大学未来ビジョン研究センター高村様,エネルギー総合工学研究所黒沢様,地球環境戦略研究機関サステイナビリティ統合センター藤野様,JFE スチール手塚様(鉄鋼),日本サステナブル・ラベル協会山口様(認証)

2 日目　現地見学

営農型太陽光発電施設（千葉エコ・エネルギー）,JFE スチール,東日本製鉄所千葉地区

3 日目　東京電力パワーグリッド株式会社

環境認証について企業とのディスカッション(速水林業,セブンイレブン)

地域脱炭素について自治体との意見交換

- 受講した動機

幼いころから夏は山でキャンプをしたり、海でシュノーケリングやダイビングをしたり、冬は雪山でスキーをすることが毎年恒例でした。年齢を重ねるにつれ、キャンプ場周辺の木々が伐採されていたり、海でサンゴの白化が年々進んでいるのを目の当たりにしたり、降雪量の減少でスキー場のオープン期間が短くなったりと、身を持って気候変動の影響を感じています。自分の大好きな自然環境を、未来永劫持続させていくために、我々人間による破壊行為を見つめ直し、行動や価値観を変えていかなければならないと考え、今まで得てきた知識を更に広げたいと思ったのが受講の決め手でした。また、同じような思いを持った同世代の人たちに出会い、お互いを高め合えるような関係が作れるのではないか、という期待もありました。

- 学位論文や研究への効果

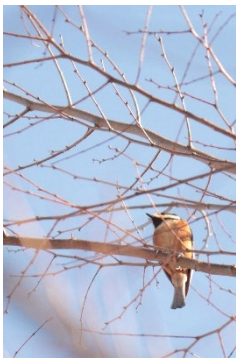
私は現在外来種に関する研究を行っています。今回のワークショップを通して、複数人の人と話し合いを重ね、様々な意見を得ることで、広い視野で物事を検討することが出来ると強く実感しました。自身の研究においても１つの考えに囚われすぎず、教授や先輩、同期などと頻繁に意見交換を行いながら、研究を進めていきたいと思いました。

- 今後参加する学生へのメッセージ

本ワークショップは、自分はある程度環境問題に詳しいと思っている人であっても、新たな学びや発見が得られる場だと思います。また、地域や学年、専攻も異なる同世代の人々と損得勘定なしの強い結びつきが得られる場でもあります。あらゆる立場の大人に助けてもらいながら、同世代の人々と存分に熱い議論を交わす楽しさをぜひ味わって欲しいです。絶対後悔しません！

参加報告書

気候変動の課題解決に取り組む学生ワークショップ(2024/03/13～17)



- 氏名：村上健太
- 所属：理学部生物科学科
- 学年：2 年
- ワークショップのグループ：鉄鋼 2

専門と直接関係の無い分野で、普段関わらないような人材や知識に触れることができた。鉄鋼が日本社会に与え得る可能性に心が躍った。

- 受けたワークショップの内容

カーボンニュートラル（ＣＮ）社会の実現に向けた世界の動向を学び、理想的な社会実現のために必要な政策案について討議した。講義、見学、討論という 3 つの形式で学びを深めた。講義では CN 化に関する基礎知識や具体的な取り組みを学び、実地視察を通じて現状認識を改め、今後の政策について討論を行った。

- 受講した動機

環境問題への興味、及び多様な人材との交流への期待から当ワークショップを受講した。理論的な学習とは離れた現実社会の課題について深く学ぶ機会は滅多に無く、良い契機になるように感じた。干ばつ、戦争、飢餓、洪水などの惨禍に日本の都市部では触れる機会が少ない。大学生の内に大局に目を向けておくことは前途を描くにあたり個人的にも社会的にも有意義であると判断した。

- 学位論文や研究への効果

論文の内容とは直接関係しないが、目的意識や展望に繋がったように思う。これから研究をするにあたって私自身も環境負荷を強いることになる。そのことを改めて実感した。知識を活かすことができる人材として可能な限り研究の文脈の中で環境に貢献する気概を養うことができた。

- 今後参加する学生へのメッセージ

今回の交流はまだ見ぬ人材への驚きと深い学びを与えてくれました。社会に出て必要になる集団討議の技能や得難い繋がりなどを育むことのできる有用な機会だと思います。春休みが多少減ったことの悔いはありますが、それを差し引いても参加してよかったです。泊り込みで、かつ忙しい 5 日間でした。遊びの一環として参加するには厳しいものがありますが、学ぶ意欲がある方にとっては楽しいと思います。環境問題に興味があって何かの機会を探している方に勧めたいです。とはいえ、学ぶ以外での交流も楽しいのでそこは安心してほしいです。

参加報告書

気候変動の課題解決に取り組む学生ワークショップ(2024/03/13～17)

- 氏名：後藤和樹
- 所属：工学部環境社会工学科
- 学年： 3年
- ワークショップのグループ：地域脱炭素①

- 受けたワークショップの内容

地域で行われている具体的な脱炭素の取り組みについて学んだ。そしてそれらを参考にしながら地域特性に応じた脱炭素の政策立案とその実施策の提案を行った。

- 受講した動機

自分の所属している学科・コースが資源をベースにして循環型社会について学ぶところであるため、今回のワークショップのテーマである脱炭素と非常に関わりが深く興味があったから。

- 学位論文や研究への効果

私はまだ3年のため具体的な研究内容をまだ完全に理解しているわけではない。ただ、私が所属する研究室では様々なマテリアルを対象に持続可能性を追究する研究を多く行っているため、今回のワークショップで学んだような将来も考えた長期的な視野や自分の意見を言語化する力は必ず研究でも役立つと考えている。

- 今後参加する学生へのメッセージ

私はワークショップ系のイベントには初めて参加したため当初は周りについていくことが出来るか不安でした。しかし実際に参加してみると、初めての体験が多い分意見を伝える能力や知識、プレゼン発表のスキルを多く身につけられました。なので、もしも今このような活動に対して一歩踏み出すか悩んでいる学生さんがいらっしゃいましたらぜひ進んで参加してみてください。

参加報告書

気候変動の課題解決に取り組む学生ワークショップ(2024/03/13～17)

- 氏名：髙本真依子
- 所属：文学部
- 学年：3 年
- ワークショップのグループ：電力 I

- 受けたワークショップの内容

講演や施設見学等を通じて知見を吸収し、それらを踏まえながらグループ提言を作成するというもの。グループの各テーマに関係のある企業の方が、企業の SDGs や脱炭素化に向けた取り組み、今向き合っている課題などについて講演してくださり、現場の人の声を直接聞くことができた。お話の中には提言作成のヒントになる情報がたくさんあったため、それらを提言に活かしてより実効力の高いものに仕上げられるようになっていたと感じる。また、本ワークショップは合宿型で、やや過密なスケジュールとなっていたが、毎日全体解散後は夜遅くまでグループのメンバーと作業することや、参加者同士で一日中議論し合うことも可能であり、体力勝負な面も少なからずあったと感じている。

- 受講した動機

本ワークショップのテーマに対して日頃なんとなく問題意識を抱えていたが、それらをきちんと知識として吸収してみたいと感じたため。さまざまな大学から学生が集まるということで、グループワークを通じて自分にはない価値観や考え方に触れてみたいと感じたため。

- 学位論文や研究への効果

私の場合は現段階でゼミでの自分の研究に直接活かせる要素を見つけられていないが、ワークショップのテーマとゼミのテーマが被る部分はあるため、今後も参考にしていきたい。ちなみに、私の電力 I グループの中には、大学の専攻で電力業界の脱炭素化に向けた取り組み（まさに今回のテーマ）を扱っている方もいた。自分の専攻とのつながりを意識してワークショップに参加された方も一定数いると思う。

- 今後参加する学生へのメッセージ

参加する学生さんがみんな非常に熱心かつ好奇心旺盛で、その場にいるだけでもかなり刺激になると思う。提言作成に関しては、ルールや制限があまりないため、グループの個性を存分に活かしながら納得のいくまで議論を深められる点も面白いと思う。自分が参加したいテーマへの知識量は求められていないが、全体像だけでも事前に掴んでおくとより議論に参加しやすくなると感じる。

参加報告書

気候変動の課題解決に取り組む学生ワークショップ(2024/03/13～17)

- 氏名： 中田　湧斗
- 所属： 経済学部経営学科
- 学年： 2 年（新 3 年）
- ワークショップのグループ：電力②

- 受けたワークショップの内容

認証、地域脱炭素、電力、鉄鋼それぞれに関する基調講演や現地見学を通して環境配慮の取り組みについて基本的な知識や現状、現場の課題を学び、それらをもとに最終的な政策提言に向けてグループワークを行った。

- 受講した動機

一つ目の理由としては、環境経済学に興味があったからである。北大では環境経済学を扱う授業が開講されておらず、私にはこの分野の知識が不足していたので今回のワークショップを通じて環境問題について学びたかった。また、二つ目の理由は、今年の秋から環境に関する経済・経営を学ぶために交換留学を予定しているので、その準備のために知識を身につけたいと考えていたと同時に、改めて自分は本当に環境に興味があるのか知りたかったからである。

- 学位論文や研究への効果

今年の春から学部 3 年となり、これからゼミに入り卒業論文のテーマを決めていくという段階なので、現時点では学位論文等に直接的な効果があるのかはわからない。しかし、ワークショップで学んだ内容自体は知らないことや新鮮なものばかりでとてもためになった。また、他の参加者の方々はそれぞれの専門分野や環境課題に対して情熱があり、その姿勢やグループワークの中での活躍は私にとってとても刺激になった。それと同時に自分の専門性の無さや、グループワークの中での経験値の少なさを痛感し、終始圧倒されていたが、自分を見つめ直す良い経験、きっかけとなったと感じている。

- 今後参加する学生へのメッセージ

全国から様々な背景を持った学生が様々なきっかけでこのワークショップに参加していました。たまたまこのプログラムを通じて優秀な学生たちと交わることができたのは何かの縁ですし、良い経験だったと思っています。いきなり参加するにはハードルが高く見えますが、どんな理由であれ参加することに意義があると思います。少しでも興味があるならば、まずは参加してみることをお勧めします。頑張ってください。